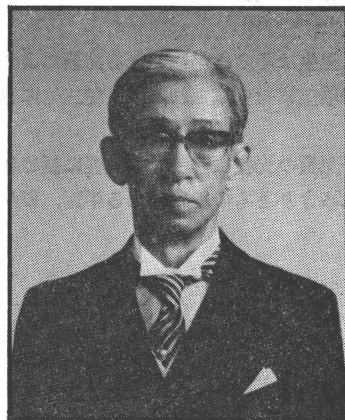


坂上治郎先生の御逝去を悼む

お茶の水女子大学名誉教授坂上治郎先生は、1984年5月31日、入院加療中の東大医科学研究所附属病院において膵臓ガンで逝去された。享年73歳。今年の2月頃までは委員会、司会などなされていただけに誠に残念である。

先生は1911年3月23日、東京の京橋に生まれ、旧制府立一中、第一高等学校を経て、1934年3月東京帝国大学理学部物理学科を卒業され、同年陸軍科学研究所、1943年第六陸軍技術研究所、1945年中央气象台研究部を経て、1949年東京女子高等師範学校教授、1950年お茶の水女子大学助教授、1957年同教授に就任され、1969年から1971年まで理学部長をつとめ、1976年4月停年により退官、同年5月に同大学名誉教授の称号をお受けになった。

この間、先生は永年にわたって、物理学の教育に努め、早くから一貫して大気乱流の構造および拡散の研究に従事し、風洞および野外における実験的研究はもちろん理論的研究に関しても数多くの論文を発表し、その業績は国際的にも高く評価された。大気中の微細な乱流構造については、ご自身の手細工による非常に小さな慣性の少ない独特な微風向計や簡便な熱線風速計を多数配置して大気中の渦の立体構造を求め、一方熱拡散のシュリーレン法や、大気中に浮遊させた微粒子の立体撮影などにより、乱れの Euler 的および Lagrange 的構造を明らかにされた。また、大気拡散についての先生の業績は特に顕著である。点源から放出された拡散微粒子の濃度分布を与える式としては、もっぱら Sutton の式あるいは英国法といわれるものが使用されていたが、先生はこれと異なる式を提唱し、自ら実施参画した数万個の風船の拡散実験、東海村の拡散実験、風洞内の乱流境界層内での拡散実験および Prairie Grass Project や Windscale の原子力発電所の事故の際の測定結果などが、先生の式によってよりよく表現できることを示された。また一方、汚染物質を出す恐れのある工場施設の敷地の選定、煙突高度の決定などの実際的な問題にも参画し、複雑な地形や市街地での拡散を風洞模型実験によって明らかにされた。そして、これら一連の大気乱流、特に大気拡散に関する研究および実際面への利用の業績に対し



て、1968年日本気象学会より藤原賞が贈られた。その折、先生はかつて教えを受けた藤原先生にまつわる渦の話をされて、この受賞を大変お喜びになっておられた。

一方、海外での調査研究活動も多い。1958年英国オックスフォードにおける「大気乱流および拡散」のシンポジウムへの出席、1963年には6か月間ドイツ、ベルリン工科大学に客員教授として招へいされ、「熱の乱流拡散の実験」を行い、1964年米国ミンガン大学における「集中された渦」のシンポジウムで発表講演を行い、1969年には通商産業省の委嘱により産業公害防止協会が作った公害調査団に加わり、ドイツ、フランス、オランダ、イギリスの公害防止に関する調査をされた。さらに、1970年には日米科学協力セミナー「温度成層内の相似」の日本側代表者として米国コロラド州立大学に行き、論文発表を行い、1973年西ドイツ、デュッセルドルフにおける第3回国際大気清浄会議で論文を発表された。そして、退官後もよく国際会議に出かけられていた。昨年の末、中国の北京で行われる会議へ行きたいといっておられたが、お体の調子が悪いとのことで間際になって断念された。このようであったから、外国においてもその業績は高く評価され、多くの学者と親交があった。

また、国内においては、在職中はもちろん、退官後も引き続き産業公害防止に関係した数多くの委員会の委員あるいは委員長としてご多忙な日々を送っておられた。

このように、主として大気拡散の根本的問題について強力な指導的活動を行われるかたわら、また筑波学園都市営繕建設事務所の委託による同地区内の国立公害研究所、気象研究所、公害資源研究所、土木研究所、農業技術研究所等の研究所に設置された10基以上の大型環境風洞の設計図審査委員会の長としてそれらの風洞の建設にも努力された。

そして、先生はその永年にわたる功績により、1983年春、勲二等瑞宝章を受章され、没後従三位に叙せられた。

江戸っ子気質の先生は誰とでも気軽に話され、齒に衣を着せずはっきりとものを言われる半面、細かいところ

に気を配られる人柄が多くの人々を引きつけた。先生は退官後もよく気象学会に出席され、各講演に対して適切な質問ならびにコメントをされていたが、ここにも後進の育成に心を配られていた先生の一端がよくうかがえた。

自然の摂理とはいえ、かけがえのない指導者坂上治郎先生を失ったいま、新しい悲しみと限りない淋しさを感じている。ここにありし日の先生の温容を偲びつつ、永年の御指導を回顧して、追悼の微意を表すとともに心から御冥福をお祈りする次第である。

(根本 茂)

正誤表 (下記の通り誤植がありましたのでお詫びして訂正させていただきます)

巻号	頁	行	誤	正
31. 8	497	上 8	地形特徴	地形特徴
	498	表下 1	青櫛	青櫛
	499	表下 2	1982. 6~11	1962. 12~1963. 11
	504	右下 9	$\sigma_{uf} = \frac{1}{\sin \theta} \sigma \Delta$	$\sigma_{uf} = \frac{1}{\sin \theta} \sigma \Delta$
		右下 8	$\sigma_u = \frac{1}{\cos \theta} \sigma \Delta$	$\sigma_u = \frac{1}{\cos \theta} \sigma \Delta$
		右下 5	$\sigma_{uf} = (1+b^{-2})^{1/2} \sigma \Delta$	$\sigma_{uf} = (1+b^{-2})^{1/2} \sigma \Delta$
		右下 4	$\sigma_u = (1+b)^{1/2} \sigma \lambda$	$\sigma_u = (1+b^2)^{1/2} \sigma \Delta$
		右下 3	$\sigma \Delta$	$\sigma \Delta$
	505	左上 4	$\sigma \Delta$	$\sigma \Delta$
		左上 5	$\sigma \Delta$	$\sigma \Delta$
		右下 9	—————・萩野谷成徳・近藤純正	森 洋介・萩野谷成徳・近藤純正
31. 11	大会予稿集予約申し込み用はがき	秋季大会	春季大会	